

学生による授業評価

—アンケート調査結果報告書—

【令和3年度】

令和4年12月
東京大学農学部

目 次

I 令和3年度の授業評価

1	はじめに	1
2	コロナ禍における学部教育の取り組み	1
3	授業評価実施科目	2
4	アンケート調査項目と実施方法	3
5	全体評価と今後の課題	4
	1) 回収率	
	2) 出席率、予習復習、授業のクオリティ	
	3) オンラインのデメリット	
	4) 自由記述でみられた特徴	
6	おわりに	6
	資料① アンケート実施案内・アンケート調査項目	8
	資料② 令和3年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿	14
	令和4年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿	14

II 結果の概要

1	集計の方針	15
2	集計結果の概要	15
	1) 授業の出席率、遅刻・早退回数	
	2) 授業の難易度、進度、予習・復習	
	3) 授業内容とシラバスとの整合性	
	4) 授業の準備・計画性	
	5) 授業の技術	
	5-1) 教員の話し方	
	5-2) オンラインツールの利用の仕方	
	5-3) 説明の分かりやすさ	
	5-4) 教員のスキル	
	5-5) 教員の授業時間の使い方	
	6) 教員の意欲と熱意	
	7) 関連分野に対する理解・関心	
	8) 総合評価	

第Ⅱ章補足資料

(1) コロナ禍における全学および農学部授業実施への取り組みの記録.....	2 1
(2) 令和2年度(臨時)授業評価アンケート	2 3
(3) 農学部の開講状況.....	2 6

Ⅲ 令和3年度授業評価アンケート集計表

1 S1・SP ターム：講義科目	2 8
2 S1・SP ターム：実験・実習科目.....	3 0
3 A・W ターム : 講義科目	3 3
4 A・W ターム : 実験・実習科目.....	3 5

I 令和3年度の授業評価

1. はじめに

東京大学農学部では、教育の質の向上と授業担当者の教育スキルの向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）の一環として、令和3年度S1・SP タームおよび A1・A2・W ターム（以下、A・W ターム）にアンケート調査票を用いた学生による授業評価（以下、授業評価）を実施した。

本報告書は、この授業評価の結果を集計・整理したものであり、全体の集計結果に自由記入欄の記載内容を含めた授業評価を担当教員に周知することを目的に取り纏めた。

本学部では、平成14年度からアンケート調査票を用いた授業評価を開始したが、その詳しい経緯については、『学生による授業評価アンケート調査報告書』（平成16年）に収録された「実施の経緯」を参照していただきたい。その後、授業評価が授業改善の有益な手がかりになるとの学部教育会議での合意に基づき、平成17年度からは隔年度毎にこれを実施してきた。

上記の合意に基づいて、授業評価の設計と実施を令和3年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）が担当し、その分析と評価を令和4年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）が行った。担当メンバーについては章末に記す。

本章では、令和元年度に実施した前回の評価結果との比較を、適宜、織り込みながら、令和3年度の調査の概要をまとめ、今後の検討事項を整理する。続く第Ⅱ章「結果の概要」では、質問ごとに集計結果および前回の評価結果との比較について記述する。第Ⅲ章はその集計結果の生データを収録する。なお、第Ⅱ章補足資料にコロナ禍でオンライン授業を導入した過程の記録を記載する。また、令和3年1月から2月にかけて農学部として簡易型の臨時授業評価アンケートを行い、グッドプラクティスな授業、オンラインでの実習についての意見、実習以外のオンライン授業の改善提案、オンライン授業実施での学生生活についての意見を収集し、その結果については学部教育会議でフィードバックしたが、一部を同補足資料として掲載する。

2. コロナ禍における学部教育の取り組み

令和3年度の授業は新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組みながらの制限下で実施された。令和2年度は年度当初から全面的なオンライン授業が全学的に実施されることとなったが、そこでの経験を踏まえて、令和3年度は授業上の工夫が行われて、前年度よりも対面による授業機会もできるだけ設ける

取り組みが進められた。

全学ならびに農学部における新型コロナウイルス感染症対策の経緯と農学部の開講状況は第Ⅱ章補足資料を参照されたい。

3. 授業評価実施科目

授業評価実施科目数および全体の科目数に占める割合は以下の通りであった。
なお、参考までに前回の実施科目の状況も掲載した。

【令和3年度】

ターム	科目区分	開講科目数	実施科目数	実施率
S1・SP ターム	講義	134	106	79%
	実験・実習	51	22	43%
	全体	185	128	69%
A・W ターム	講義	205	131	64%
	実験・実習	58	31	53%
	全体	263	162	62%
年度全体	講義	339	237	70%
	実験・実習	109	53	49%
	全体	448	290	65%

【令和元年度】(参考)

ターム	科目区分	開講科目数	実施科目数	実施率
S1・SP ターム	講義	116	93	80%
	実験・実習	59	41	69%
	全体	175	134	77%
A・W ターム	講義	207	180	87%
	実験・実習	65	37	57%
	全体	272	217	80%
年度全体	講義	323	273	86%
	実験・実習	124	78	63%
	全体	447	351	79%

※未実施の理由は「授業内容とアンケートが合わない」「調査時期が合わない」など

令和元年度も令和3年度も、アンケートはそれぞれの授業の終了するターム末に実施した。

令和3年度は、令和元年度の調査に比べると年度全体として実施率が低くなっている、特にS1・SPタームの実験・実習科目、A・Wタームの講義科目について実施率が低かったことが影響している。完全オンラインでのアンケート実施は初めての試みであったことから、今回の経験を踏まえて次回以降、より高い実施率が達成できるように実施体制の検討が必要である。

4. アンケート調査項目と実施方法

アンケートはオンラインで行ったが、過年度のマークシート用紙による調査内容の多くを継承している。アンケート調査には講義科目と実験・実習科目を区別して2種類の調査様式を用意し、後者には演習科目も含めた。章末に調査の手順、アンケート実施サイトへアクセスするためのQRコード票、アンケート画面を示す。担当教員へは、アンケートの実施について協力をする際、授業の最終回終了時に学生にアンケートへ答えるよう促してもらう手順を示した。ただしその場での時間が限られていたり、出席していない学生もいたりすることを考慮して、その後暫時回答できる余裕を設けた。

回答期間

S1・SPターム	2021年5月18日（火）9:00～2021年9月17日（金）9:00
A1・A2・Wターム	2021年11月8日（月）9:00～2022年1月31日（月）9:00

アンケート調査票では、授業評価に関する選択式設問の回答欄と自由記入欄を設けている。選択式の問いは、下記のようなカテゴリーからなり、4段階または5段階の評価を求めた。なお、オムニバス授業の場合に担当した教員によって評価が異なってくることを踏まえて、いくつかの質問では複数回答も可能にした。

調査票の設問は、前年との比較のため、平成25年度以来、おおむね同一の様式を踏襲してきた。ただし今回、オンライン授業においてITC-LMSなどのツールの利用が一般的になったことを前提に、講義科目における授業の資料の準備等の状況を確認するところで、これらのツールを適切に利用できていたかどうかを質問することにした。

講義科目用質問項目

- (1) 出席状況 (Q1・Q2)
- (2) 学生の授業への取組み (Q3)
- (3) 授業の難易度・進度 (Q4・Q5)
- (4) 授業の準備の良否 (Q6・Q7)
- (5) 授業の技術の巧拙 (Q8・Q9・Q10・Q11・Q12)
- (6) 教員の意欲と熱意 (Q13・Q14)
- (7) 授業の総合的な評価 (Q15・Q16)

実験・実習科目用質問項目

- (1) 出席状況 (Q1・Q2)
- (2) 学生の授業への取組み (Q3)
- (3) 授業の難易度・進度 (Q4・Q5)
- (4) 授業の準備の良否 (Q6・Q7)
- (5) 授業の技術の巧拙 (Q8・Q9・Q10・Q11・Q14)
- (6) 教員の意欲と熱意 (Q12・Q13)
- (7) 授業の総合的な評価 (Q15・Q16)

5. 全体評価と今後の課題

令和3年度のアンケートは、前回実施した令和元年のアンケートとは、社会情勢やアンケート方式において大きな違いがあった。まず新型コロナウイルスの蔓延により、令和2年度以降は、ほとんどの授業がオンラインになった。全学レベルでオンライン授業が及ぼした影響の評価は行われているが、農学部独自のアンケートにより、よりきめ細かな評価ができたと思われる。また、今回はオンライン講義と連動して、アンケートがウェブ入力的方式になり、それまでの紙媒体のアンケートから大きく変わった。こうした情勢や方式の変化が、授業の質や学生の取り組みにどう影響したかを評価することが、今回の報告書の主眼である。

1) 回収率

まずアンケート結果の信憑性を判断するうえで重要な回収率を見てみよう。S1とSPタームでは、講義が46.1%、実験が30.4%であった。A1・A2・Wタームでは、それぞれ35.4%と27.2%とやや低下した。いっぽうで、令和元年度の回収率は、実験・実習あるいはタームに関わらず、すべて50%を超えていた。とくに、実験・実習では前回より20%以上の著しい低下を示したことは注目すべきである。

回収率の低下の原因としては、教員から学生への通知の不徹底や、講義時間内でのアンケート実施が減ったことが考えられる。教員にとって紙ベースで渡されるアンケートは、その実施について一定の縛りを与えることになるが、事務からのメールでの通達では、そこまでの意識をもたせることができなかったであろう。回収率を今後高めるには、UTAS や ITC-LMS を通して、学生にアンケートを通知し、実施を促す仕組みを作ることが必要である。現に、駒場で開講されている総合科目では、ITC-LMS の「アンケート」欄を使って、事務が授業評価について通知することになっているようだ。

もう一つ重要な点は、講義よりも実験・実習で、回収率がより顕著に低下したことである。この低下は、前回と前々回のアンケートでは全く見られなかったことを考えると、オンライン形式のアンケートが、実験・実習の回収率に大きな影響を与えたことを意味している。実験・実習は講義に比べて時間がかかることが多く、退室時間にもバラツキが出たことなどが、回収率低下の要因かもしれない。今後ヒアリングなどを通して、原因を正確に把握する必要がある。

2) 出席率、予習復習、授業のクオリティ

授業評価の重要な指標である出席率については、講義、実習ともに明らかに前回のアンケート時よりも向上している。どこにいても授業に参加できるというオンラインならではのメリットが発揮されたことは疑いない。また予習・復習の頻度が増えたことも特徴である。オンライン講義により、教員が ITC-LMS などのツールを使う機会が増え、講義資料の事前や事後の掲示が普及したことが原因と思われる。これは、授業の事前準備の充実にもつながったと思われ、授業のスキルの評価は概ね高かった。以上から、オンライン授業の普及は、教員と学生の双方にとって、授業のクオリティを高める効果をもたらしたに違いない。実際、総合評価についても前回よりも満足度が 4-5%上昇しており、オンライン授業は多くの項目で学生の満足度や学習意欲を高めたことが推察された。

3) オンラインのデメリット

一方で、オンライン講義のデメリットも見逃してはならない。ひとつは、実験・実習で難易度が高かったとする解答が増えたことである。講義科目では、そうした傾向はなかったことからすると、個別的な技術指導がオンラインでは思うようにできなかったこと、つまり実験や実習では特に必要とされる教員と学生のコミュニケーションがとりにくかったことが原因と思われる。ただ、総合評価については、前回よりも評価が低下していなかったことからすれば、教員側のオンライン上での工夫が、デメリットを相殺したと見ることができる。

4) 自由記述でみられた特徴

「結果の概要」では記されていないが、アンケートには自由記述欄がある。ここではそのうちで注目すべきものをいくつか挙げたい。

まず試験の形式について重要な意見があった。持ち込み不可の試験を課している講義があったが、そもそも不正を確認する手立てが乏しいオンライン試験で、「持ち込み不可」は意味をなさないという意見である。また、講義中に行われる小テストについてもいくつか重要な意見があった。小テストの時間が短すぎる、難易度が高い、解答が示されないので自身の評価ができない、などである。さらに、授業時間外の課題が多く、大きな負担になったという意見もあった。これは駒場の授業でも問題になったことであり、農学部でも過大な課題を課さないことを心がける必要があるだろう。一方で、内容がオンデマンドで配信された講義については歓迎されていた。これは単なる見逃し配信の役割だけでなく、聞き逃した点や理解が追いつかなかった点を後日確認し、理解を深めるうえで大きな役割を果たしたに違いない。オンデマンド配信は、スライド中で使用する図や写真等の著作権の問題があり、教員としては慎重になる場合もあるだろうが、可能であれば対面の講義でも併用することが教育効果を高めることになるだろう。

以上、前回と今回のアンケートの結果を対比させ、学生による授業評価がどう変化したかについて、とくにコロナ下で普及したオンライン講義のメリットとデメリットに注目して概説した。総じて、オンライン講義のメリットが十分に活かされたと言える。新型コロナウイルスの蔓延で、突然しいられたオンライン授業は、教員や学生にとって大きな戸惑いや負担をもたらした。だが、コロナ2年目にあたる平成3年度には、教員の努力と学生の順化により、様々な不便さを克服でき、むしろ多くの面で授業の質の向上をもたらした。ただ一方で、顔の見えない授業は様々な限界があるのは明らかである。現在、対面授業が戻ってきているが、まだコロナの収束を見通すことができる状況にはない。また、コロナ終息後にもオンラインのメリットを活用することは必要である。今回のアンケート結果は、新しい授業形態を模索していくうえで、貴重な情報源となるに違いない。

6. おわりに

本報告書は、授業の内容と教授法の改善等、教育の質の向上、また、その結果、学生の学びへの姿勢の改善ならびに学修目標の達成の向上に活用されなければならない。そのためには、本報告書の内容を各教員に周知することが重要

であり、また各教員がどのように授業改善に活用したかをフィードバックすることが必要である。

また、自由記入欄への書き込みは、学生が授業に対して、どのような要望・意見・感想を持っているのかを知るために有用である。個々の科目に記入されたコメントを各教員が真摯に受け止めることで、授業における学生と教員の信頼関係はより強くなると期待される。

教育活動に従事する教員にとって、教育の内容と方法の質的な向上を図ることは大きな責務である。授業評価の集計結果を本報告書で公表することは、この責務の履行状況の一端を開示するという意味合いを持つ。

今回の報告書は、コロナ禍というこれまで直面したことのない事態の中での授業を対象にした。否応なく取り組むこととなったオンライン手法は、長期的に見ればいつかは取り入れるべきものであり、乱暴な進め方ではあったものの先取りする機会になったという見方もなくはない。しかしその実践は容易なことではなかったことはすべての構成員が実感している。学生の忍耐と前向きな努力、そして関係する教員、職員、TA 等の真摯な取組によって、最悪の事態は避けられたのではないかというのが率直な感想である。

このような特殊な状況下での評価であったが、今後の改善に向けて本報告書の結果をご利用いただくとともに、評価方法や取りまとめ方に対する忌憚のないご意見やご批判を頂戴できれば幸いである。

【資料①】 アンケート実施案内・アンケート調査項目

【資料②】 令和3年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿
令和4年度農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿

東京大学農学部

授業評価アンケート

2021 年度 S1SP ターム

2021 年度 S1SP タームの科目について、下記の通り「授業評価アンケート」を実施してください。

【実施科目】

科目名：

教員名：

調査コード： （学生に周知してください）

【実施期間】

2021 年 5 月 18 日（火）午前 9：00 ～ 9 月 17 日（金）9：00 まで

【実施方法】

各授業の中（最終日）で 10 分程度の時間を取り、下記手順に従ってください。

- STEP1> 学生に授業アンケート実施を伝え、スマートフォンを用意してもらいます。
(PC、タブレットでも回答可能です。)
- STEP2> 回答サイトの URL を知らない学生には QR コード票を配布し、サイトにアクセスしてもらいます。
オンライン授業で遠隔実施する場合は以下のどちらかの方法を選択ください。
方法 1) 配信する教材内に URL を掲載していただき、URL よりアクセスしてもらいます。(URL は QR コード票を参照ください。)
方法 2) 動画授業中に QR コードを表示または掲示し、学生にスマホカメラで読み取ってもらいます。
- STEP3> ID・パスワードを入力し、ログインしてもらいます。

農学部所属学生（教養 2 年内定生含む）

⇒ ID：学生証番号（ハイフンを除いた 8 桁の数字）

パスワード：氏名（学生証記載の氏名。姓名の間のスペースは入れない）

他学部学生・大学院学生 ⇒ ID：88888888 ・ パスワード：その他

- STEP4> 学生に調査コードを周知します。回答する調査コードを入力して「次へ」ボタンを押してもらいます。
- STEP5> 画面に沿って回答してもらいます。
・自由記述を除く各設問は必須回答かつ単一回答です。
・ただし、オムニバス授業の「質問 4 ～ 質問 14」については複数回答となります。
- STEP6> 最後の質問まで回答が済みしたら、「回答を送信して終了する」を押して終了です。

<問合せ先>

農学系教務課学生生活担当

電話 03-5841-2777

Mail:gakusei.a@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

【QRコード票】

下記のどちらかの方法で授業アンケート回答サイト TOP ページにアクセスし、手順に従って授業アンケートに回答してください。

※回答は誰が答えたのか分かってしまいますが、集計の過程で誰であるかを特定できないようにいたします。

＜方法 1＞



下の QR コードからアクセス

＜方法 2＞

下記 web アドレスへアクセス

https://dciwebu3.jp/schoolsurvey/?survey_id=A01

～TOP ページが表示されたら～

①ID・パスワードを入力してください。

農学部所属学生（教養 2 年内定生含む）

ID：学生証番号（ハイフンを除く 8 桁）

パスワード：氏名（学生証記載の氏名、スペースは除く）

他学部学生・大学院学生

ID：88888888 ・ パスワード：その他

②回答をする「調査コード」を入力後「次へ」ボタンを押して回答画面に進んでください。

★★★お気に入り／ブックマークへの登録のお願い★★★

授業アンケートは皆さんが受講している全ての科目について実施します。
回答サイト TOP ページをお気に入りまたはブックマークへ登録してください。

<回答科目：調査コード 101G>

分析化学

浅見 忠男

水1

回答せずに調査コード入力に戻る

*が付いた質問は必ず回答ください。

【質問1*】 この授業にどれくらい出席しましたか？

- ☐ A. ほぼ全て出席した
- ☐ B. 2～3回欠席した
- ☐ C. 4～6回欠席した
- ☐ D. 7回以上欠席した

【質問2*】 出席した際に、遅刻あるいは早退をしましたか？

- ☐ A. 0～1回
- ☐ B. 2～3回
- ☐ C. 4～6回
- ☐ D. 7回以上

【質問3*】 授業内容の理解を深めるために、予習・復習等を行いましたか？

- ☐ A. 十分に行った
- ☐ B. 行った
- ☐ C. ある程度行った
- ☐ D. あまり行っていない
- ☐ E. 全く行っていない

【質問4*】 授業内容の難易度はどうでしたか？

- ☐ A. ちょうどよい
- ☐ B. やややさしい
- ☐ C. やや難しい
- ☐ D. やさしすぎる
- ☐ E. 難しすぎる

【質問5*】 授業の進度はどうでしたか？

- ☐ A. ちょうどよい
- ☐ B. やや早い
- ☐ C. やや遅い
- ☐ D. 早すぎる
- ☐ E. 遅すぎる

【質問6*】 この授業はシラバスに記載されている授業の目標・概要、授業計画等と合っていましたか？

- ☐ A. とても合っている
- ☐ B. 合っている
- ☐ C. ほぼ合っている
- ☐ D. あまり合っていない
- ☐ E. 合っていない

【質問7*】 この授業はよく準備・計画されていると思いますか？

- ☐ A. とても準備されている
- ☐ B. 準備されている
- ☐ C. ほぼ準備されている
- ☐ D. やや準備不足である
- ☐ E. 準備不足である

【質問8*】 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか？

- ☐ A. とても聞き取りやすい
- ☐ B. 聞き取りやすい
- ☐ C. ほぼ聞き取りやすい
- ☐ D. やや聞き取りにくい
- ☐ E. 聞き取りにくい

【質問9 *】 授業の資料の準備、情報提供、配布の仕方について、ITC-LMSなどのオンラインツールを適切に利用していましたか？

- ☐ A. とても適切だった
- ☐ B. 適切だった
- ☐ C. 普通程度
- ☐ D. やや不適切だった
- ☐ E. 不適切だった

【質問10 *】 授業内容について、教員の説明はわかりやすかったですか？

- ☐ A. 非常にわかりやすかった
- ☐ B. わかりやすかった
- ☐ C. ほぼわかりやすかった
- ☐ D. ややわかりにくかった
- ☐ E. わかりにくかった

【質問11 *】 Q7～Q10の項目から総合的に判断して、教員の講義のスキルについてどう思いますか？

- ☐ A. 非常に優れている
- ☐ B. 優れている
- ☐ C. 普通程度
- ☐ D. やや劣っている
- ☐ E. 劣っている

【質問12 *】 教員は授業時間を適切に使っていましたか？

- ☐ A. 適切に使われていた
- ☐ B. 開始時間が遅い
- ☐ C. 早く終わらずぎる
- ☐ D. 長引きすぎる
- ☐ E. 休講が多い

【質問13 *】 教員は授業に意欲的に取り組み、指導は熱心でしたか？

- ☐ A. とてもそう思う
- ☐ B. そう思う
- ☐ C. ある程度そう思う
- ☐ D. あまりそう思わない
- ☐ E. そう思わない

【質問14 *】 質問に対する教員の対応はどうでしたか？

- ☐ A. とても熱心である
- ☐ B. 熱心である
- ☐ C. ある程度熱心である
- ☐ D. あまり熱心でない
- ☐ E. 熱心でない

【質問15 *】 この授業を受けて、関連する分野の理解と関心が深まりましたか？

- ☐ A. とても深まった
- ☐ B. 深まった
- ☐ C. ある程度深まった
- ☐ D. あまり深まらなかった
- ☐ E. 深まらなかった

【質問16 *】 この授業に対する総合的な評価を5段階で示してください。

- ☐ A. とても満足している
- ☐ B. 満足している
- ☐ C. 普通程度
- ☐ D. やや不満である
- ☐ E. 不満である

【質問17】 この授業について良かった点、改善してほしい点等があれば自由に記入してください。
また、複数教員による授業の場合、個々の教員の講義について指摘すべき意見があれば記入してください。

回答を入力



回答を送信して終了する

回答を送信して調査コード入力に戻る

回答せずに調査コード入力に戻る

<回答科目：調査コード 501A>

国際農学実験・実習 I

松本 安喜
水木3～5、集中

回答せずに調査コード入力に戻る

*が付いた質問は必ず回答ください。

【質問1 *】 この授業にどれくらい出席しましたか？

- ☐ A. ほぼ全て出席した
- ☐ B. 2～3回欠席した
- ☐ C. 4～6回欠席した
- ☐ D. 7回以上欠席した

【質問2 *】 出席した際に、遅刻あるいは早退をしましたか？

- ☐ A. 0～1回
- ☐ B. 2～3回
- ☐ C. 4～6回
- ☐ D. 7回以上

【質問3 *】 授業内容の理解を深めるために、予習・復習等を行いましたか？

- ☐ A. 十分に行った
- ☐ B. 行った
- ☐ C. ある程度行った
- ☐ D. あまり行っていない
- ☐ E. 全く行っていない

【質問4 *】 授業内容の難易度はどうでしたか？

- ☐ A. ちょうどよい
- ☐ B. やややさしい
- ☐ C. やや難しい
- ☐ D. やさしすぎる
- ☐ E. 難しすぎる

【質問5 *】 授業の進度はどうでしたか？

- ☐ A. ちょうどよい
- ☐ B. やや早い
- ☐ C. やや遅い
- ☐ D. 早すぎる
- ☐ E. 遅すぎる

【質問6 *】 この授業はシラバスに記載されている授業の目標・概要、授業計画等と合っていましたか？

- ☐ A. とても合っている
- ☐ B. 合っている
- ☐ C. ほぼ合っている
- ☐ D. あまり合っていない
- ☐ E. 合っていない

【質問7 *】 この授業はよく準備・計画されていると思いますか？

- ☐ A. とても準備されている
- ☐ B. 準備されている
- ☐ C. ほぼ準備されている
- ☐ D. やや準備不足である
- ☐ E. 準備不足である

【質問8 *】 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか？

- ☐ A. とても聞き取りやすい
- ☐ B. 聞き取りやすい
- ☐ C. ほぼ聞き取りやすい
- ☐ D. やや聞き取りにくい
- ☐ E. 聞き取りにくい

【質問9 *】 授業内容について、教員の説明はわかりやすかったですか？

- ☐ A. 非常にわかりやすかった
- ☐ B. わかりやすかった
- ☐ C. ほぼわかりやすかった
- ☐ D. ややわかりにくかった
- ☐ E. わかりにくかった

【質問10 *】 Q7～Q9の項目から総合的に判断して、教員の講義のスキルについてどう思いますか？

- ☐ A. 非常に優れている
- ☐ B. 優れている
- ☐ C. 普通程度
- ☐ D. やや劣っている
- ☐ E. 劣っている

【質問11 *】 教員は授業時間を適切に使っていましたか？

- ☐ A. 適切に使われていた
- ☐ B. 開始時間が遅い
- ☐ C. 早く終わりすぎる
- ☐ D. 長引きすぎる
- ☐ E. 休講が多い

【質問13 *】 質問に対する教員の対応はどうでしたか？

- ☐ A. とても熱心である
- ☐ B. 熱心である
- ☐ C. ある程度熱心である
- ☐ D. あまり熱心でない
- ☐ E. 熱心でない

【質問14 *】 ティーチング・アシスタント（TA）による授業支援は役に立ちましたか？

- ☐ A. とても役に立った
- ☐ B. 役に立った
- ☐ C. あまり役に立たない
- ☐ D. 役に立たない
- ☐ E. TAはいない

【質問15 *】 この授業を受けて、関連する分野の理解と関心が深まりましたか？

- ☐ A. とても深まった
- ☐ B. 深まった
- ☐ C. ある程度深まった
- ☐ D. あまり深まらなかった
- ☐ E. 深まらなかった

【質問16 *】 この授業に対する総合的な評価を5段階で示してください。

- ☐ A. とても満足している
- ☐ B. 満足している
- ☐ C. 普通程度
- ☐ D. やや不満である
- ☐ E. 不満である

【質問17】 この授業について良かった点、改善してほしい点等があれば自由に記入してください。
また、複数教員による授業の場合、個々の教員の講義について指摘すべき意見があれば記入してください。

回答を入力



回答を送信して終了する

回答を送信して調査コード入力に戻る

回答せずに調査コード入力に戻る

令和3年度 農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿

中 嶋 康 博 教 授（学部教育会議議長）

福 田 健 二 教 授（学部教育会議副議長）

伊 藤 純 一 准教授（応用生命科学課程主任）

加 藤 洋一郎 教 授（環境資源科学課程主任）

堀 本 泰 介 教 授（獣医学課程主任）

令和4年度 農学部学部教育会議専門委員会（授業評価関係）名簿

中 嶋 康 博 教 授（学部教育会議議長）

宮 下 直 教 授（学部教育会議副議長）

松 下 範 久 准教授（応用生命科学課程主任）

安 藤 光 義 教 授（環境資源科学課程主任）

堀 本 泰 介 教 授（獣医学課程主任）

II 結果の概要

1. 集計の方針

アンケート調査の集計結果を、質問ごとに回答の実数と割合を算出し、その結果を過年度と比較して概要をまとめた。

2. 集計結果の概要

1) 授業の出席率、遅刻・早退回数

講義科目の出席率は、「ほぼすべて出席（0～1 回欠席）」の割合が 94.4%であり、令和元年度の調査時（以下、前回調査）の 75.7%から大きく増加した。また、遅刻・早退が「0～1 回」であった学生の割合も 91.8%であり、前回調査の 78.9%より大きく上昇した。ほとんどの講義がオンラインで行われたことが、出席率の増加や遅刻・早退回数の低下の要因となった可能性が考えられる。

実験・実習の出席率は、「ほぼすべて出席」の割合が 96.1%と非常に高く（前回調査 90.9%）、遅刻・早退が「0～1 回」であった学生の割合も 95.5%（前回調査 89.8%）と非常に高かった。これらの理由としては、実験・実習に興味をもつ学生が多いことや、実験・実習は必修科目が多いこと、毎回出席して実験・実習に取り組むことが成績評価において重視されることなどが考えられる。

2) 授業の難易度、進度、予習・復習

講義科目では、授業内容の難易度が「ちょうどよい」と回答した割合は 61.6%と最も高く、前回調査（61.3%）と同様の結果であった。また、「やさしすぎる」または「やややさしい」と回答した割合は 4.7%と前回調査（6.5%）よりも少し減少し、「難しすぎる」または「やや難しい」と回答した割合は 33.7%と前回調査（31.6%）よりも少し増加した。授業の進度についても同様の傾向が見られ、授業の進度が「ちょうどよい」の回答が 78.1%と最も高く（前回調査 78.5%）、「遅すぎる」または「やや遅い」の回答が 4.4%（前回調査 5.0%）、「早すぎる」または「やや早い」の回答が 17.4%（前回調査 15.8%）を占めた。これらの結果は、前回調査と変わらない傾向であり、講義全体の難易度や進度に関しては大きな問題はないと考えられる。一方、予習・復習を「十分に行った」、「行った」、「ある程度行った」と回答した割合は 62.2%と、前回調査（51.2%）に比べて大きく上昇した。この要因としては、講義資料を ITC-LMS など事前に配布する科目が増え、予習・復習が行いやすくなったことなどが考えられる。

実験・実習では、授業内容の難易度が「ちょうどよい」と回答した割合が 67.1%と最も高かったが、その割合は前回調査（72.6%）よりも低く、「難しすぎる」または「やや難しい」と回答した割合は 28.8%と前回調査（20.1%）より増加した。また、授業の進度についても同様の傾向が見られ、「ちょうどよい」と回答した割合が 82.8%と最も高かったが、その割合は前回調査（86.6%）よりも減少し、「やや早い」または「早すぎる」と回答した割合は 12.5%と前回調査（8.4%）より少し増加した。これらの結果の要因としては、新型コロナウイルス感染防止のため、例年とは実験・実習内容を変更したことや、オンラインを併用した実験・実習を行ったことなどにより、対面に比べて教員や TA による個別の細やかな指導が難しかったことなどが考えられる。一方、予習・復習を「十分に行った」、「行った」または「ある程度行った」と回答した割合は 81.3%と講義科目よりも高く、前回調査（68.5%）よりも大きく増加した。この結果は、講義科目よりも実験・実習に興味をもつ学生が多いこと、オンライン（自宅）で行う内容が増えたこと、実験書や配布資料が用意されている場合が多いこと、レポートの頻度が高いことなどが理由として考えられる。

3) 授業内容とシラバスの整合性

授業内容とシラバスの記載内容とが、「とても合っている」、「合っている」または「ほぼ合っている」と回答した割合は、講義科目で 98.6%（前回調査 97.1%）、実験・実習で 99.7%（前回調査 97.8%）と非常に高い割合を占めたことから、シラバスの充実とシラバスに沿った計画的な授業が継続されていると考えられる。

4) 授業の準備・計画性

講義科目については、S1・SP ターム、A・W タームでそれぞれ 51%、52%の学生が「とても準備されている」と評価している。これに対して「準備不足である」と「やや準備不足である」の割合の合計は両者とも 2%と僅かである。こうした全体的な傾向は前回の授業評価結果と変わらない。

実験・実習については、S1・SP ターム、A・W タームともに、「とても準備されている」の割合が高い（66%、62%）。これに対して「準備不足である」と「やや準備不足である」の割合の合計はともに 1%であり、講義科目と同様に僅かである。

前回の授業評価結果と比べると改善が見られているのが今回の大きな特徴である。講義について「とても準備されている」の割合をみると、S1・SP タームは 44%から 51%に、A・W タームは 46%から 52%に 5 ポイント以上上昇している。実験・実習について「とても準備されている」の割合をみると、S1・SP タームは 58%から 66%に、A・W タームは 60%から 62%と改善がみられる。この

背景として考えられるのがオンライン授業への移行である。事前に講義資料が受講生に配信され、授業もパワーポイントが使われるケースが増加したことが影響しているのではないと思われる。また、オンライン授業の2年目ということもあり、教員が1年間の経験を活かした結果とみることもできるだろう。

なお、前々回の授業評価結果では、選択肢の設定は異なるが、「よく準備されている」という評価は、講義科目についてはS1・SPターム60%、A・Wターム59%、実験・実習についてはS1・SPターム70%、A・Wターム72%と今回の「とても準備されている」という評価の割合を上回っている。これが「とても」と「よく」の間の差によるものなのか、オンライン授業の影響を反映したものかどうかについては、次回以降の結果を慎重に検討する必要があると考える。

5) 授業の技術

5-1) 教員の話し方

講義科目については、S1・SPターム、A・Wタームともに50%、46%の学生が「とても聞き取りやすい」と評価している。これに対して「やや聞き取りにくい」と「聞き取りにくい」の割合の合計は、S1・SPタームで4%、A・Wタームで5%にとどまっている。

実験・実習については、「とても聞き取りやすい」とした学生がS1・SPタームで61%、A・Wタームで58%であり、講義科目に比べると評価は10ポイント以上高くなっている。これに対して「やや聞き取りにくい」と「聞き取りにくい」の割合の合計は、S1・SPタームで2%、A・Wタームで3%と小さい。

教員の話し方について、実験・実習の評価が講義科目の評価に比べて高い傾向にある点は前回および前々回の授業評価結果と同様である。

ただし、今回は前回の授業評価結果よりも僅かだが改善がみられる。「とても聞き取りやすい」という評価をみると、講義科目については、S1・SPタームが44%から50%、A・Wタームは41%から46%、実験・実習についてはS1・SPタームが58%から61%、A・Wタームは55%から58%となった。これがオンライン授業となったことと関係しているかどうかは、次回以降、対面授業に戻った時の評価結果と比べて判断する必要がある。

5-2) オンラインツールの利用の仕方

オンラインツールの利用の仕方の授業評価は講義科目についてのみ行われているが、「とても適切だった」という回答の割合は、S1・SPタームで47%、A・Wタームで48%とほぼ5割近くに達している。これに対して「やや不適切だった」と「不適切だった」の割合の合計はS1・SPターム4%、A・Wターム3%と僅かにとどまっている。

前回の授業評価では「板書等、講義の進め方」という設問だったため単純な

比較は難しいが、前回は、S1・SP ターム 34%、A・W ターム 38%であったので、これと比べるといずれも 10 ポイント以上の大幅な改善がみられることになる。また、「とても適切だった」と「適切だった」の割合の合計も、前回は S1・SP ターム 77%、A・W ターム 79%であったのに対し、今回は S1・SP ターム 83%、A・W ターム 85%となっており、やはり上昇している。

オンライン授業に移行して 2 年目の授業評価であったため、令和 2 年度のはじめに教員を対象としたオンライン授業の説明会などを受講した教員が、1 年間の経験を積んで Zoom の使用に習熟した結果の反映だと考えられる。

5－3) 説明のわかりやすさ

講義科目については、S1・SP ターム、A・W タームの順に、「非常にわかりやすかった」は 38%、37%、「わかりやすかった」は 40%、42%という回答割合となっており、両者を合計すると全体のほぼ 8 割になる。

実験・実習については、S1・SP ターム、A・W タームともに講義科目と比べて「非常にわかりやすかった」の割合が高い（54%、51%）。この傾向は前回の授業評価結果と同様である。

また、前回の評価結果と比べると、「非常に分かりやすかった」とする評価は、講義科目については、S1・SP タームは 34%から 38%、A・W タームは 35%から 37%、実験・実習については、S1・SP タームは 48%から 54%、A・W タームは 53%から 51%と変化しており、A・W タームの実験・実習を除くと、いずれも小幅ながら割合が大きくなっている。

5－4) 教員のスキル

講義科目については、S1・SP ターム、A・W タームともに、「非常に優れている」（42%、41%）、「優れている」（41%、42%）の回答を合わせると全体の 8 割を超えており、総じて講義における教員のスキルに対する評価は高い。また、これらの割合は前回の授業評価結果よりも高くなっている。例えば、「非常に優れている」は、S1・SP タームは 36%から 42%へ、A・W タームは 37%から 41%へと増加している。こうした結果はオンラインツールに対する高い評価と関係しているのではないと思われる。

実験・実習については、S1・SP ターム、A・W タームともに「非常に優れている」（61%、54%）と講義科目よりも高い評価となった。この結果は前回ならびに前々回と同様である。また、前回よりも今回の方が高い評価となっており、特に S1・SP タームは 46%から 61%へと 15 ポイントも上昇している。ただし、A・W タームについては 53%から 54%とほとんど変化はみられない。

5－5) 教員の授業時間の使い方

講義科目については、S1・SP ターム、A・W タームともに9割以上が「適切に使われていた」(94%、94%)と評価していた。これは前回の授業評価結果(93%、92%)、前々回の授業評価結果(93%、90%)と同水準となっている。

実験・実習についても「適切に使われていた」が(94%、91%)である。前回の授業評価結果のA・W タームは86%だったので、ここは上昇した。

授業時間の使い方については講義科目と実験・実習の間で目に見えるような差はない。

一方、講義科目について「長引きすぎる」という回答割合は低下傾向にあり、S1・SP タームは前々回、前回、今回の順に10%、5%、3%、A・W タームも同様に8%、9%、5%となっている。次回以降は再び105分授業に戻ることになるが、90分授業の導入とその定着が、授業を受ける学生の側からすると一定の評価を得ていたのかもしれない。

6) 教員の意欲と熱意

授業に対する教員の熱意は、「とてもそう思う」と「そう思う」の割合が、講義科目でS1・SP ターム、A・W タームとも90%であった。さらに、「ある程度そう思う」を併せると、S1・SP ターム、A・W タームとも99%という極めて高い値になり、いずれも前回より1~2ポイント高くなった。一方、実験・実習科目の「とてもそう思う」と「そう思う」の割合はS1・SP ターム、A・W タームとも92%となり、逆に前回より2~3ポイント低くなった。しかし、「ある程度そう思う」を併せると、S1・SP タームは100%、A・W タームは98%となる。総じて、授業に対する教員の熱意は非常に高く評価されていることが伺われる。実験・実習科目でみられたマイナス変化についてはコロナ禍の影響を少なからず反映している結果であろう。

質問に対する教員の対応は、講義科目で「とても熱心である」と「熱心である」の割合がS1・SP ターム 87%、A・W ターム 88%であり、前回より大幅に(5~8ポイント)上昇した。さらに、「ある程度熱心である」を加えるとその割合は、S1・SP ターム、A・W タームとも99%になる。これらの高い数字が、上記の教員の熱意に対する高評価に繋がったと考えられる。一方、実験・実習科目では、「とても熱心である」と「熱心である」の割合が、S1・SP ターム、A・W タームとも91%であり、「ある程度熱心である」を加えた合計では、S1・SP ターム100%、A・W ターム99%となり、講義科目以上の高い数値となった。学生の質問に対する教員の真摯な態度が反映された結果であろう。

実験・実習科目のうち、S1・SP タームの92%とA・W タームの67%においてTAによる授業支援が行われた。A・W タームでは前回よりTAの参加が大幅に(14ポイント)低くなったのは、コロナ禍による対面実習の減少に伴う結果であると考えられる。一方、TAが参加した科目のうち、S1・SP タームの95%、A・W タ

ームの 99%において、TA による授業支援が「とても役立った」あるいは「役立った」と回答されており、TA の参加による高い教育効果が得られているものと評価できる。

7) 関連分野に対する理解・関心

授業を受けて関連分野に対する理解・関心が、「とても深まった」あるいは「深まった」と回答があった割合は、講義科目の S1・SP タームの 72%、A・W タームの 73%、実験・実習科目の S1・SP タームの 85%、A・W タームの 89%と、いずれも前回とほぼ同じ数値であった。しかし、「ある程度深まった」を含めると、講義科目の S1・SP ターム、A・W タームとも 96%と前回から 3 ポイント以上高くなり、講義内容の充実を図る教員の努力が認められる。一方、実験・実習科目の「ある程度深まった」を含めた数値は S1・SP タームで 97%、A・W タームで 99%であり、実験・実習科目の教育効果の高さを表している。

8) 総合評価

講義科目に対する総合評価として、S1・SP タームで 81%、A・W タームで 83%の学生が「とても満足している」あるいは「満足している」と回答した。これらの割合は、前回調査よりそれぞれ 5 および 4 ポイント高くなっている。一方、実験・実習科目に対する総合評価として、S1・SP タームで 90%、A・W タームで 92%の学生が同様な高い満足度を回答した。S1・SP タームについては前回の数値と同等である一方、A・W タームについては前回から 4 ポイント上昇している。逆に、「やや不満である」または「不満である」と回答した学生は、講義科目で S1・SP ターム、A・W タームとも 3%と前回の数値から大きな変化はないものの、実験・実習科目では S1・SP ターム、A・W タームとも 0%（前回 2%）となった。この実験・実習科目の満足度が目立つ評価は、農学部の特徴が反映された結果であると考察できる。総じて、今回の調査では、講義科目に対しては前回より高い評価を獲得し、実験・実習科目に対しては前回同様の高い評価が維持されていると概括できる。コロナ禍でありながらも、講義科目のさらなる充実と実験・実習科目に対する学生の満足度が維持された今回の調査結果は、教員の努力を反映した結果であると評価できる。

第Ⅱ章補足資料

(1) コロナ禍における全学および農学部の授業実施への取り組みの記録（抜粋）

【全学】

2020年3月17日 教育運営委員会において学事暦を変更しないことを決定

2020年3月18日 総長メッセージ

1. 卒業式・学位記授与式は簡素化して行う
2. 4月からの新学期授業は学事暦通り行う
3. 対面での講義は最小限とし、オンライン化を奨励し推進する
4. 新学期の開始時に、教員および学生に対してのオンライン授業のガイダンスと試行を行う
5. 本年の入学式典は行わず、式辞、祝辞などをオンライン配信する
6. 構内への学外者の立ち入りを制限する
7. 公衆衛生的な措置を継続する

2020年4月3日 東京大学の活動制限指針〔レベル2〕

2020年4月8日 東京大学の活動制限指針〔レベル3〕

2020年7月6日 教育運営委員会「令和2年度における授業再開に係るガイドライン」

2020年7月13日 東京大学の活動制限指針〔レベル0.5〕

2020年9月11日 情報基盤センター・大学総合教育研究センター「説明会：Aセメスターのオンライン・ハイブリッド授業に向けて—Sセメスターの経験を振り返って」開催

2020年9月15日 文部科学省高等教育局長「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）」

2020年10月20日 教育運営委員会「令和3（2021）年度の各授業科目の実施に係るガイドライン」

2020年11月24日 教育運営委員会「対面授業およびオンライン授業の実施に関するガイドライン」

2021年1月11日 東京大学の活動制限指針〔レベル1〕

2021年3月8日「オンライン授業に関する検討ワーキンググループ中間報告」

2021年3月22日 東京大学の活動制限指針〔レベル0.5〕

2021年4月27日 東京大学の活動制限指針〔レベル準1〕

2021年6月21日 東京大学の活動制限指針〔レベルA（旧レベル0.5相当）〕

2021年7月12日 東京大学の活動制限指針〔レベルB〕

2021年7月12日「オンライン授業に関する検討ワーキンググループ報告」

2021年7月12日 東京大学オンライン授業・Web会議ポータルサイト(utelecon)
「オンライン授業等に関するアンケート結果(2020年度Aセメスター)」の公表

2021年10月4日 東京大学の活動制限指針〔レベルA〕

2022年10月20日 教育運営委員会「イベント開催時の新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」

2021年11月18日 教育運営委員会「令和3(2021)年度Aセメスターにおける対面授業に関する感染防止対策の一部緩和について」

2021年11月8日 教育システム整備検討ワーキング発足

2022年1月24日 東京大学の活動制限指針〔レベルB〕

2022年3月28日 東京大学の活動制限指針〔レベルA〕

2022年1月25日 教育運営委員会「令和4(2022)年度の授業の実施方針について」

2022年3月31日 教育運営委員会「令和4(2022)年度の授業の実施方針について」(改訂)、「対面授業実施に当たっての「3密回避」への対応について」(改定)

2022年5月19日 教育運営委員会「イベント開催時の新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」(改訂)

【農学部・農学生命科学研究科】

2020年3月18日 臨時学部・研究科教育会議で2020年度当初よりすべての講義科目でオンライン授業実施を決定

- ・4月第1週 オンライン授業研修期間
- ・4月第2週 オンライン授業習熟期間
- ・4月第3週 オンライン授業本格開始
- ・オンライン授業検討WG、オンライン化TFを設置
- ・オンライン授業 教員のための講習会・相談会(オンラインで4回開催)

2020年8月4日 新型コロナウイルス感染者等への対応マニュアル(2021年5月25日、2022年4月1日改訂)

2020年7月31日 対面講義の実施方針

2020年9月2日 実習計画の申請・審査手順書

2020年10月1日 オンライン教室予約開始

2021年2月1日 令和2(2020)年度(臨時)授業評価アンケートの実施

2021年3月15日 農学生命科学研究科・農学部における2021年度の授業実施方針について/対面授業届け出手順書

2021年7月7日 農学生命科学研究科・農学部における2021年度の授業実施方針について(改訂)

2021 年 12 月 1 日 農学生命科学研究科・農学部における 2021 年度の授業実施方針について（再改訂）

2022 年 1 月 21 日 A1 ターム、W タームでの対面授業、対面試験を計画されている先生方へ

2022 年 7 月 7 日 A1 ターム以降開講科目のシラバス登録について

（２）令和２年度（臨時）授業評価アンケート

【アンケート実施の概要】

今年度の新型コロナウイルス感染拡大対応により S1S2 タームにオンライン授業が全面的に実施されたこと、A1 ターム以降もオンライン授業が継続していることを踏まえ、その点を考慮したアンケートを臨時で実施する。

アンケートは年度内に取りまとめ、来年度のオンライン授業実施への参考としてフィードバックすることを目的とする。

アンケートは以下の依頼文により学部学生を対象に実施し、グーグルフォームへの回答する方式で２月１日から実施した。

【学生への依頼文】

新型コロナウイルス感染拡大対応により今年度からオンライン授業が実施されておりますが、来年度以降もオンライン授業を継続していくことが想定されます。農学部としては、この状況において学生諸君の意見を伺い、より良いものにしていきたいと考えています。

つきましては、オンライン授業についてのアンケートを実施いたしますので、積極的な意見・アイデアを回答いただき、より良い授業、より良い学生生活にしていけるよう協力をお願いします。

【グッドプラクティスな授業】

- ・14 科目についてコメントあり

【オンラインでの実習について】

- ・7 科目についてコメントあり

【実習以外のオンライン授業の改善提案】

- ・せっかくオンラインで授業を行い、録画もしているのならば、それを原則公開していただけると復習を行えて学習効果が高まると思います。出席者にアドバンテージを与えたいという意図であれば、ZOOM のチャットや ITC-LMS のワンタイムパスワードによる出欠登録などの機能を用いて出席点を付加すれば良いと思います。現在も通信の問題などがあれば先生に直接お願いすることは可能だと思いますが、そのような問題はなく受講したものであっても、数回視聴できると覚えやすくなるため利用できると有り難いです。授業資料の復習・教科書での勉強なども勉強方法にはありますが、個人の覚えやすさ

には差があるため、向き不向きに合わせて録画の利用もできると良いと思いました。

- ・パワーポイントのスライドを次へ次へと送るペースが早すぎて、メモが間に合わない授業がかなり多くありました。
- ・課題を提出する授業が普段よりも多く感じたが、課題を提出するだけで個人宛にフィードバックが返ってこない授業もあり、特にオンラインであるため教員との交流も生まれにくいいため、課題へのフィードバックを簡単でもいいので行っていただきたいです。
- ・双方向的な授業スタイルがあると良いと思います
- ・専門実験でシミュレーションを行った。画面共有をしてオンラインで話し合っ
て進める形式だったが、シミュレーションの使い方も難しく、その話を TA
の方からも聞かないといけない上に、オンラインで方針を話し合いながら行
うのは困難だった。対面で行える時期であったので対面で行うべきだった。
- ・オンライン授業だと、家で受ける関係上、普段の授業よりも緊張感が生まれ
にくいいため、授業途中で簡単な出席を取る、復習のための軽い課題を出すな
どの方法がいいのではないかと感じる（ただ、課題が多くなると他の授業と
の兼ね合いもあるため、事前に課題をどれほど出すかシラバスに明記する、
初めの授業で課題の量のアンケートを取るなどの方法も取り入れたほうがい
いと思う）。
- ・オンラインだから動画を見せやすい、という思考で動画を見せる授業が多か
ったと感じた。もちろん効果的なものもあるが、zoom で動画を流してもカク
カクしてしまう場合が多いので少なくとも良いかもしれない。よくわからな
い映像を流して、この映像のテーマはなんでしょう、という話をする授業
があったが、それはよくわからなかった。
- ・90 分間休憩なしで授業が続くのはかなり厳しかったです。（特に目の疲れ）間
に 10 分程度休憩がある授業ではこの点はそれほど問題ありませんでした。
- ・邪魔されず且つ電波の入る場所の確保に苦労しました。オンライン授業受講
用に Wi-Fi のある教室や図書館を開放していただきたいです。
- ・講義資料を ITC-LMS にアップロードしてくださる先生と、そうでない先生が
いらしたのですが、可能であれば前授業について資料をアップロードしてい
ただけたら嬉しいです。
- ・他大学で教鞭をとっておられる先生が出張講義してくださったとき、ITC-LMS
の使い方がよくわからないとおっしゃっていました。結局最後まで ITC-LMS
は使わずじまいだったので、外部の先生が講師として授業を持たれる場合に
は ITC-LMS へのアクセス方法を整備していただいた方が学生としてはストレ
スなく受講できると感じます。

【オンライン授業実施での学生生活について】

- ・オンライン授業はたしかに教員側も学生側も難しいと感じるが、一方でサークル活動など様々なものが制限される中で、授業を受けることに集中でき、学問的側面は良いように思う。しかし、学生同士の交流や、教員と学生との交流も生まれにくいのも事実だと感じる。交流することで考え方や経験を共有でき、相互に影響し合えると思い、また、感染対策をしっかりと実施して対面で会うことも非常に効果的だと感じる。そのため、少人数や実習に関しては、感染対策をしっかりと行い、今後も段階的に対面を解禁していく、また教員側からも交流促進のために交流会を開く、面談を開くなどの試みがあれば、学生生活がかなり改善されると思う。
- ・(特に農学部での友人をつくる機会がほとんどなかった現2年生について) 学生同士の交流の場を専修主導で作るのがいいと思います。本来は学生の中で主体的に集まってより仲良くなるものだと思いますし、もともと仲がよかった学生同士はコロナ禍でも Zoom 上で集まる機会をもっている例もありますが、特に現2年生は学生側で「Zoom で食事会をしよう」などと主体的に動けるほど専修内で仲良くなる機会がなかったので、このままでは一向に専修内の同級生と知り合う機会がもたれないと思います。そこで、専修主体で、(必ずしも先生方が司会をする必要はなく、上級生が仕切るなどでもいいと思うので、) 学生同士のコミュニケーションの機会を確保するようにすると、コロナ禍にあってもよりよい学生生活になると思います。
- ・学生同士のコミュニケーションの場を作る、実習の課題を減らす。
- ・全員に対して実施することは難しいかもしれませんが、教授や准教授、院生と学部生が複数人または1対1で面談する機会があればよいと思います。
- ・人数制限を行いながらも、図書館の閲覧席を開放していただきたいです。図書館内は飲食もせず会話もせず正面には基本的に他の人との間に仕切りがあり(大テーブルの利用時を除き)、感染症拡大の可能性は他施設よりもずっと低いと思います。オンライン授業が続き自宅にこもりきりの日々が続くと気が滅入りそうになるときがあります。遊びに行くことや友人との飲食店利用などによる気晴らしができないことは仕方ないと考えていますが、危険性の比較的低い環境(ここでの例は図書館ですが)を閉めることがどれほど効果的なことなのか疑問に思っています。ある程度の学習環境を保っていただけると、有り難いです。
- ・オンラインだと通学時間が省けるので楽でした。一方でオンラインだと集中力が持続しにくいなどの欠点もあると思います。なので、どの授業でもオンラインと face to face とで自分が好きな時に選択できるようになるといいと思いました。
- ・撮影した講義動画に ITC-LMS などからアクセスできるようになると、学生の学習能率が上昇すると思います。

(3) 農学部の開講状況

令和3年度のS1・SPタームの開講状況は、令和3年3月中旬の時点で、オンライン授業が139科目、対面授業が25科目、オンライン・対面併用授業が26科目、未定が29科目であった。また、A・Wタームの開講状況は、9月下旬の時点で、オンライン授業が201科目、対面授業が14科目、オンライン・対面併用授業が11科目、未定が37科目であった。

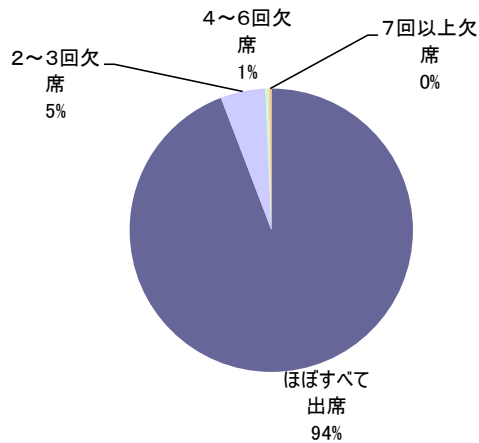
Ⅲ 集計表

S 1 ・ S P ターム

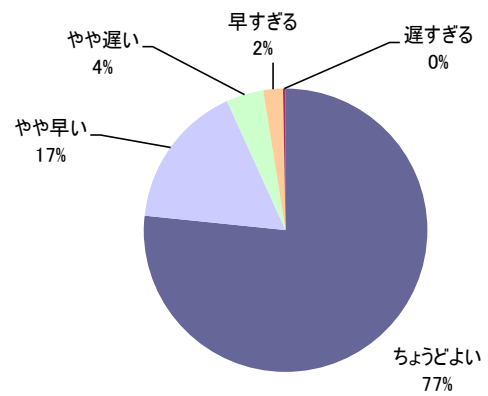
授業評価アンケート結果集計表

東京大学農学部 2021年度S1・SPターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：講義）

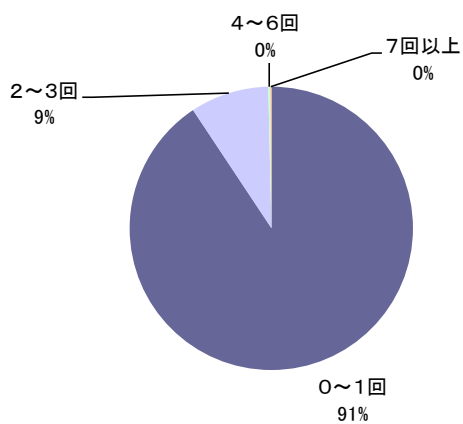
Q1. 授業の出席率



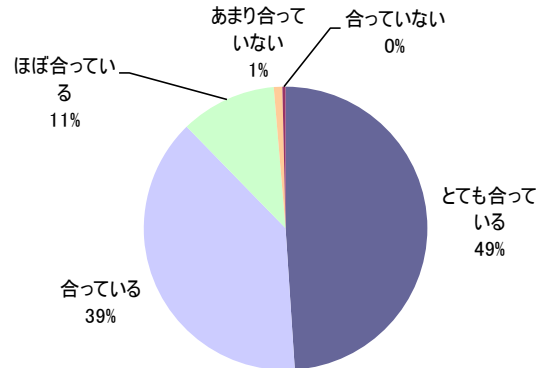
Q5. 授業の進度



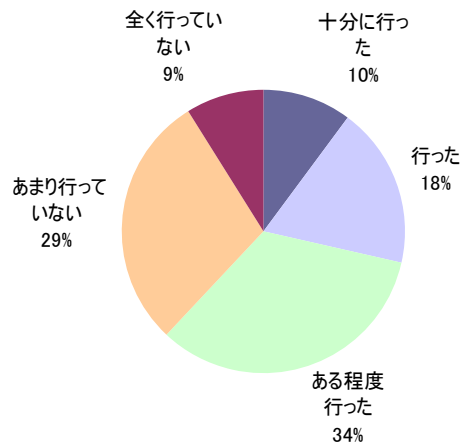
Q2. 遅刻・早退回数



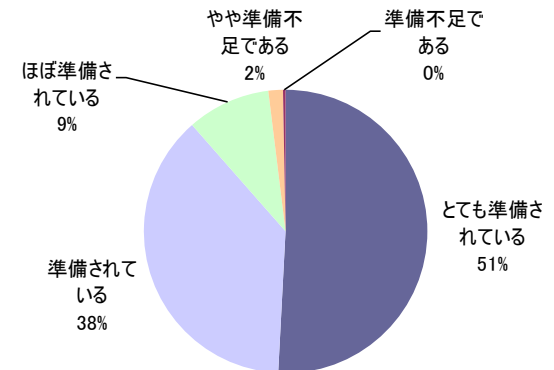
Q6. 授業内容とシラバスの整合性



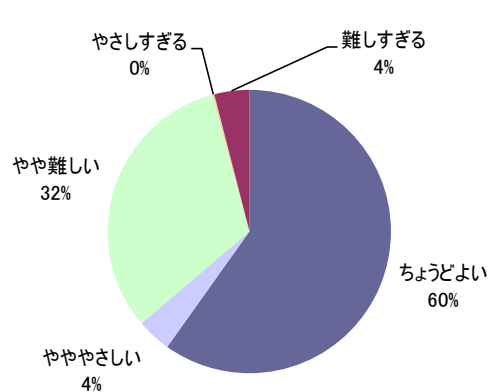
Q3. 授業の予習・復習



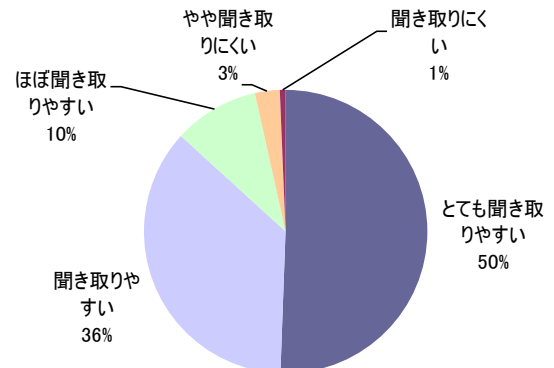
Q7. 授業の準備・計画性



Q4. 授業内容の難易度

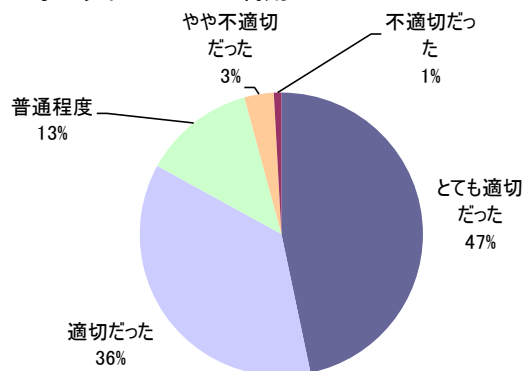


Q8. 教員の話し方

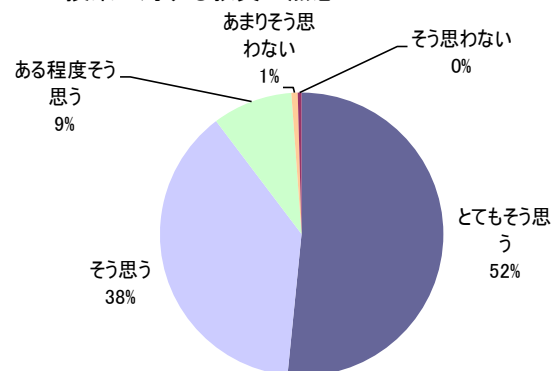


東京大学農学部 2021年度S1・SPターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：講義）

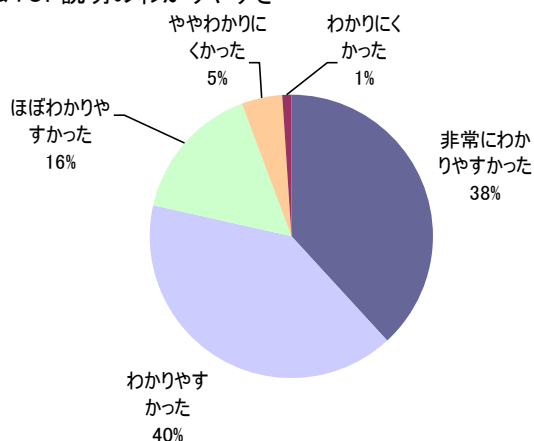
Q9. オンラインツールの利用



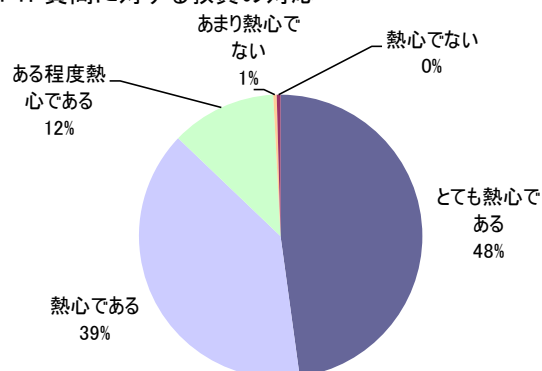
Q13. 授業に対する教員の熱意



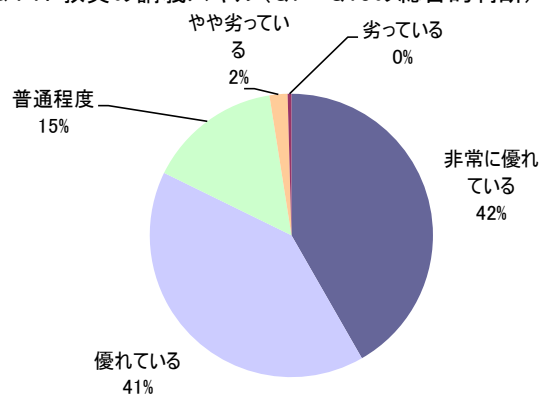
Q10. 説明のわかりやすさ



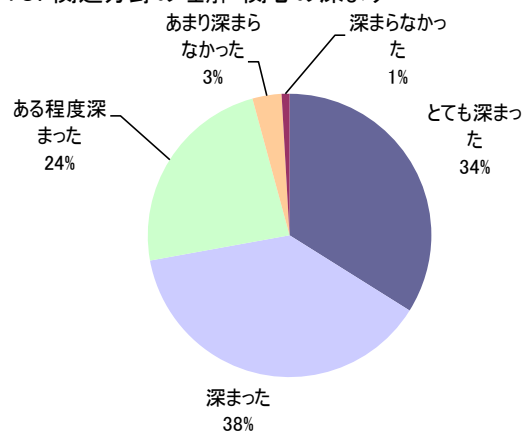
Q14. 質問に対する教員の対応



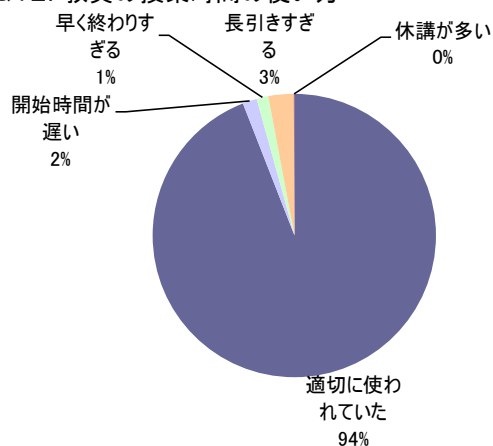
Q11. 教員の講義スキル（Q7～Q10の総合的判断）



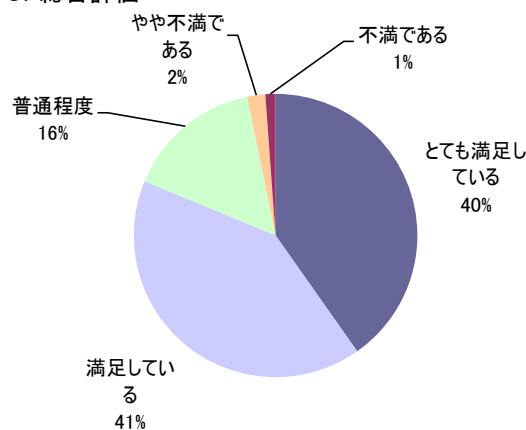
Q15. 関連分野の理解・関心の深まり



Q12. 教員の授業時間の使い方

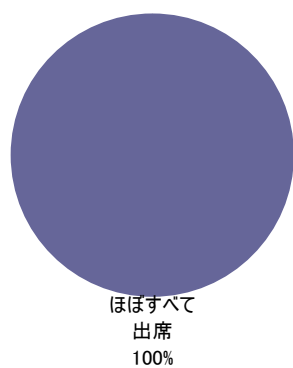


Q16. 総合評価

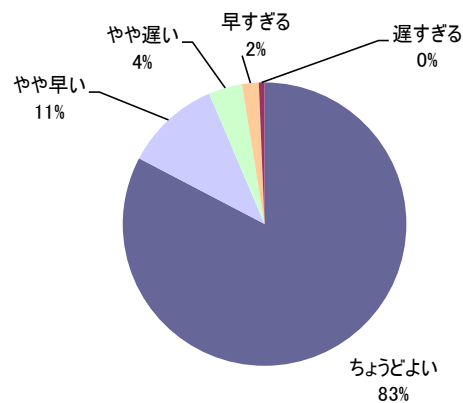


東京大学農学部 2021年度S1・SPターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：実験）

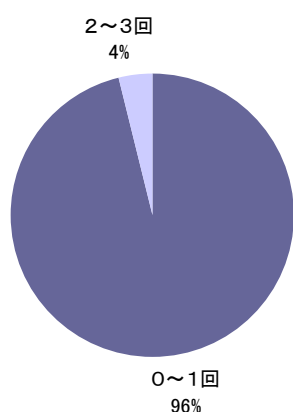
Q1. 授業の出席率



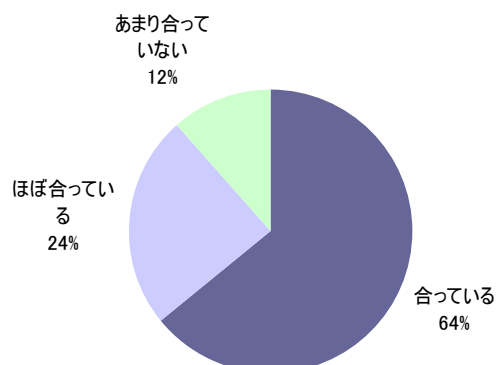
Q5. 授業の進度



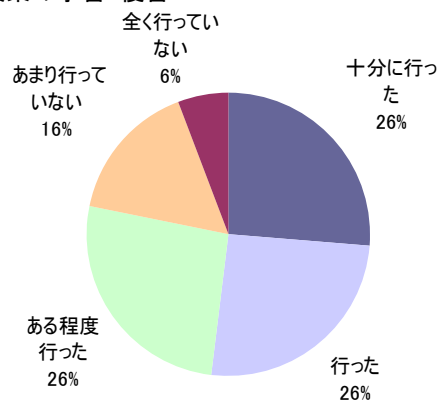
Q2. 遅刻・早退回数



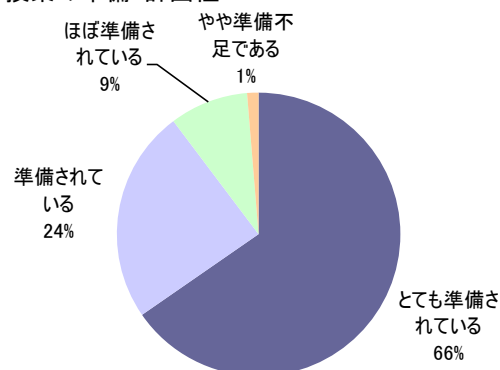
Q6. 授業内容とシラバスの整合性



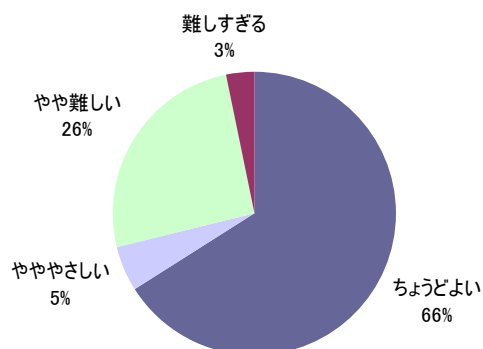
Q3. 授業の予習・復習



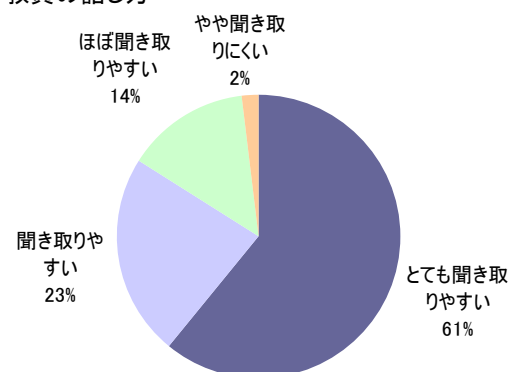
Q7. 授業の準備・計画性



Q4. 授業内容の難易度

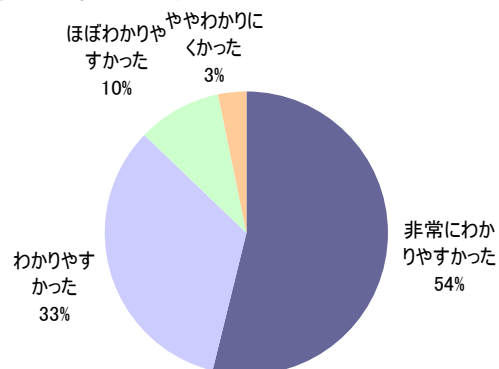


Q8. 教員の話し方

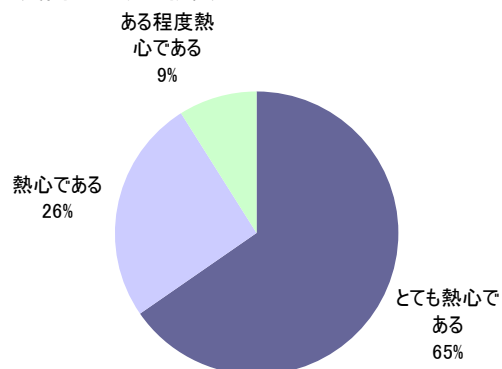


東京大学農学部 2021年度S1・SPターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：実験）

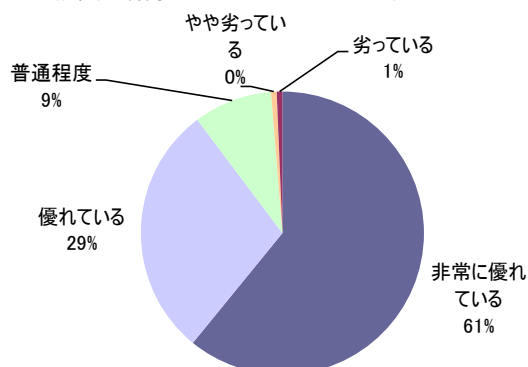
Q9. 説明のわかりやすさ



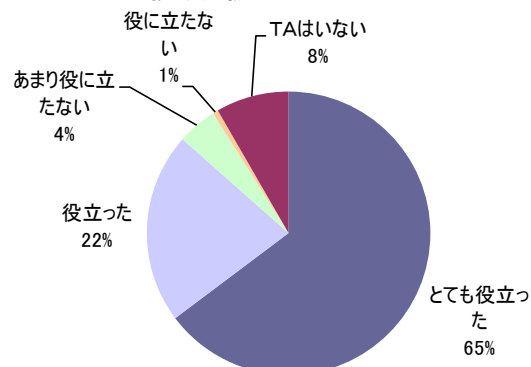
Q13. 質問に対する教員の対応



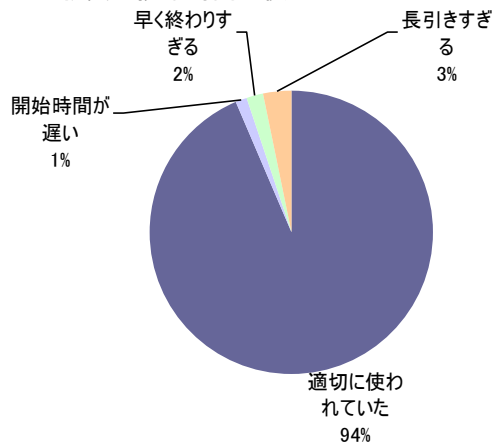
Q10. 教員の講義スキル(Q7～Q10の総合的判断)



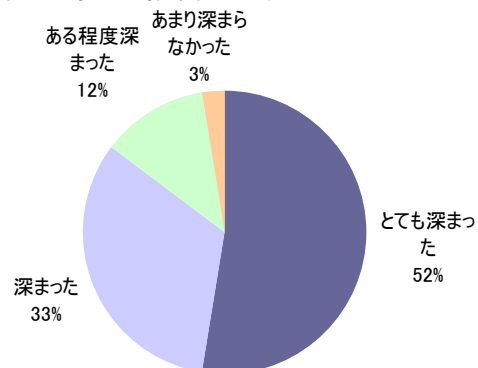
Q14. TAによる授業支援



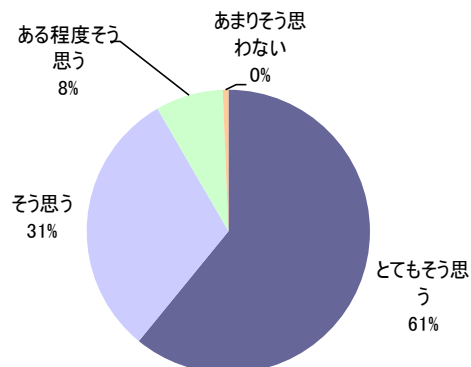
Q11. 教員の授業時間の使い方



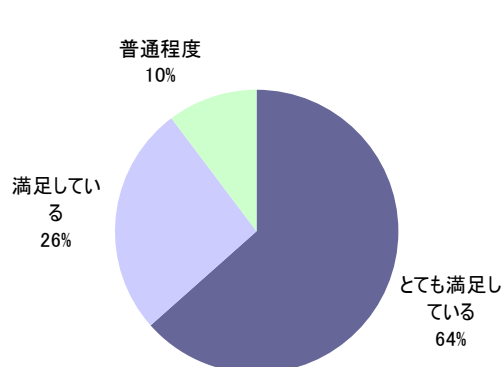
Q15. 関連分野の理解・関心の深まり



Q12. 授業に対する教員の熱意



Q16. 総合評価

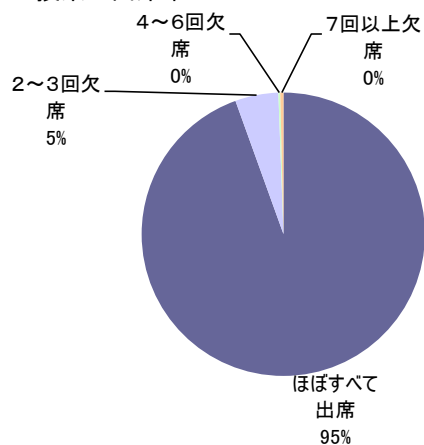


A・Wターム

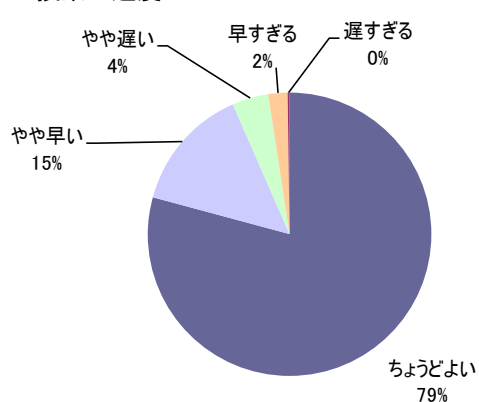
授業評価アンケート結果集計表

東京大学農学部 2021年度AWターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：講義）

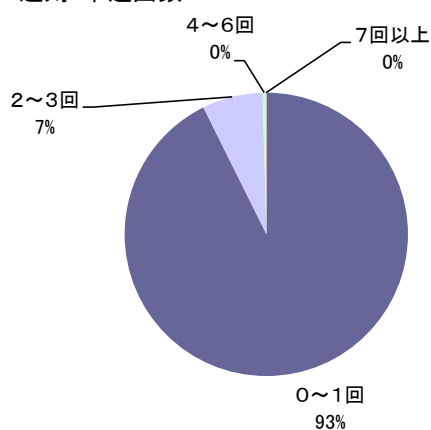
Q1. 授業の出席率



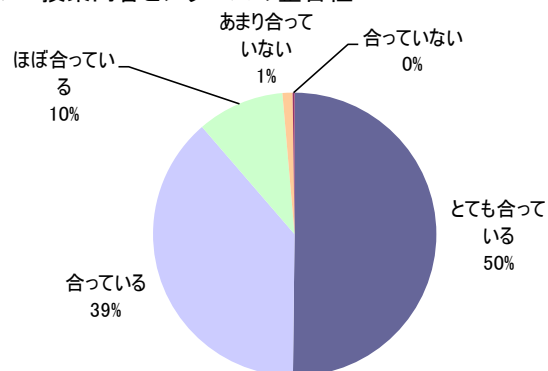
Q5. 授業の進度



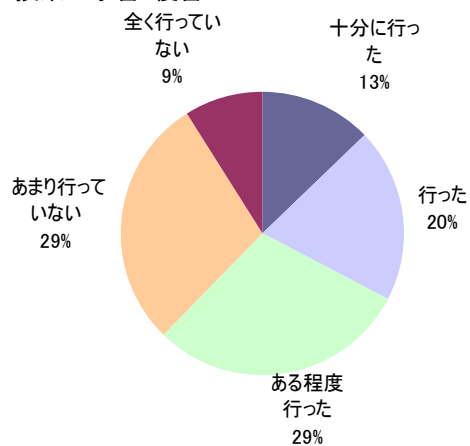
Q2. 遅刻・早退回数



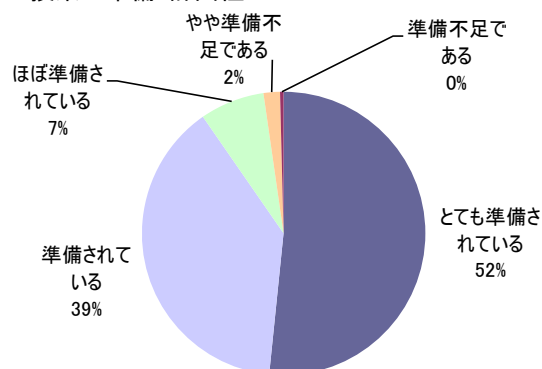
Q6. 授業内容とシラバスの整合性



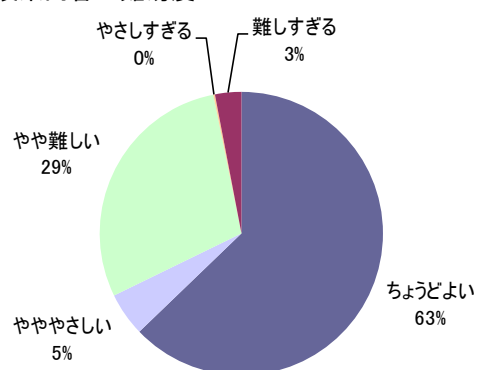
Q3. 授業の予習・復習



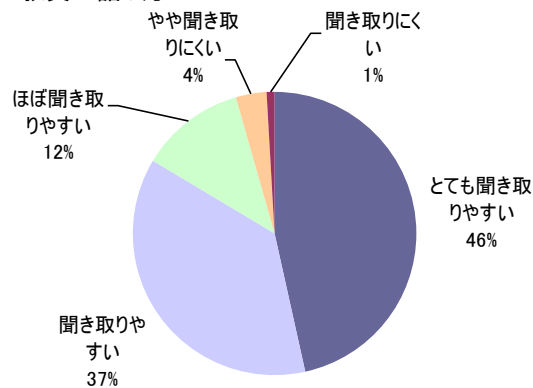
Q7. 授業の準備・計画性



Q4. 授業内容の難易度

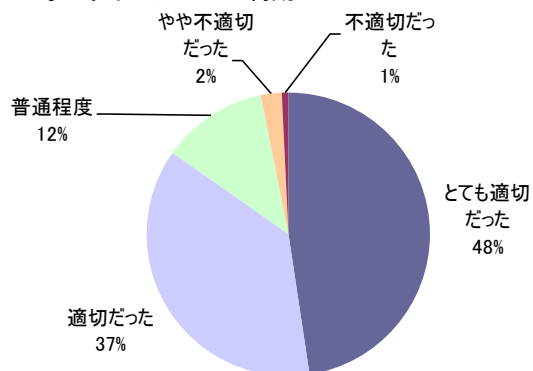


Q8. 教員の話し方

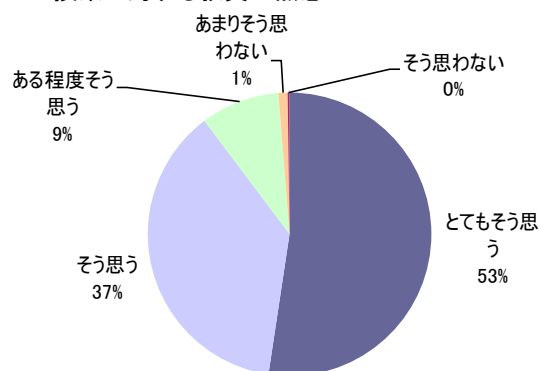


東京大学農学部 2021年度AWターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：講義）

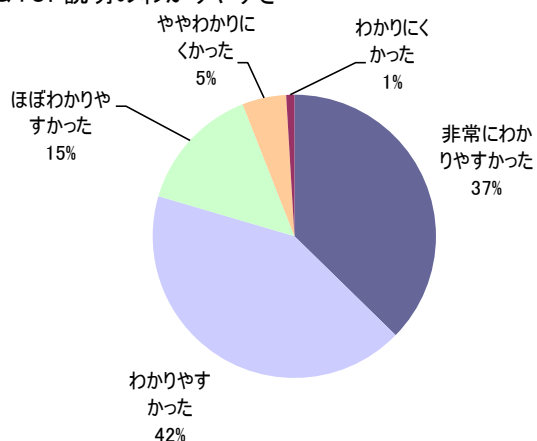
Q9. オンラインツールの利用



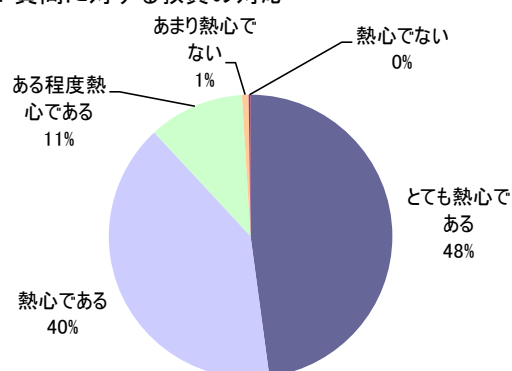
Q13. 授業に対する教員の熱意



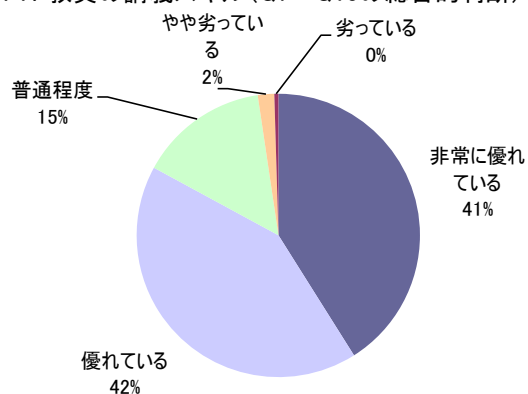
Q10. 説明のわかりやすさ



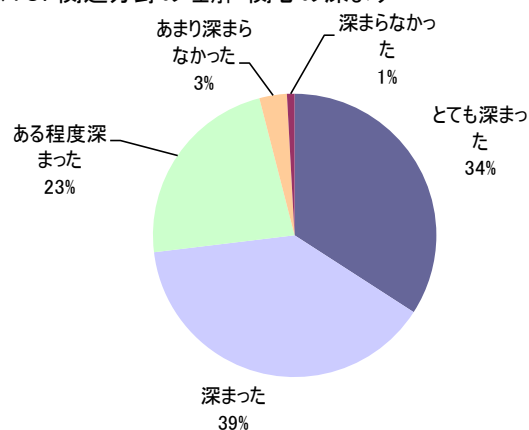
Q14. 質問に対する教員の対応



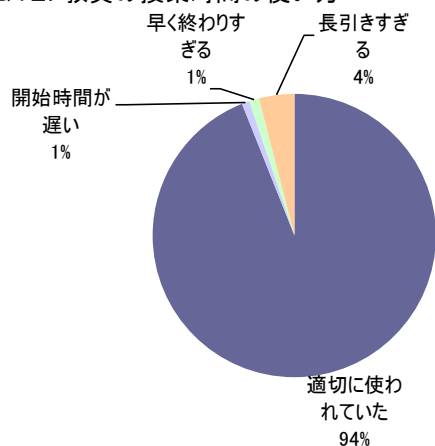
Q11. 教員の講義スキル（Q7～Q10の総合的判断）



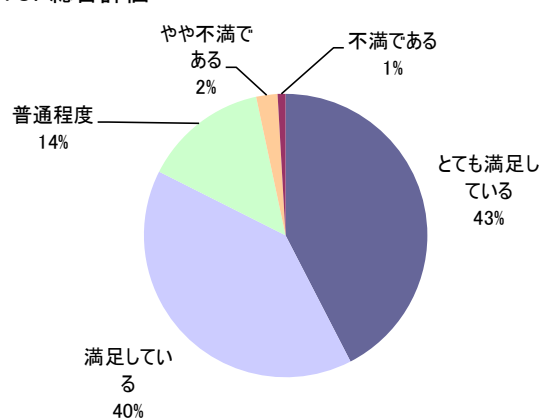
Q15. 関連分野の理解・関心の深まり



Q12. 教員の授業時間の使い方

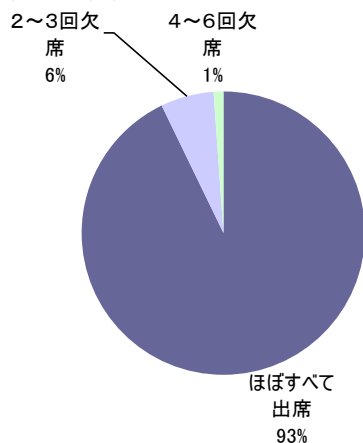


Q16. 総合評価

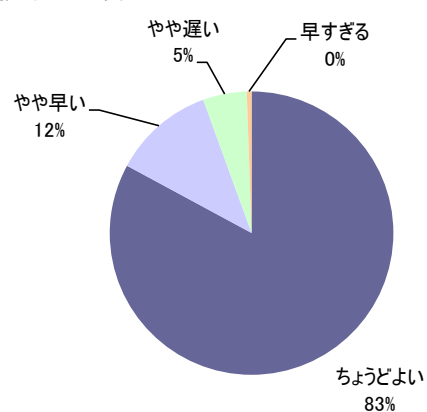


東京大学農学部 2021年度AWターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：実験）

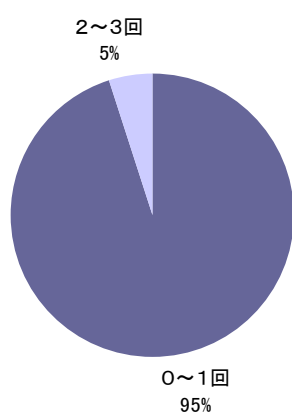
Q1. 授業の出席率



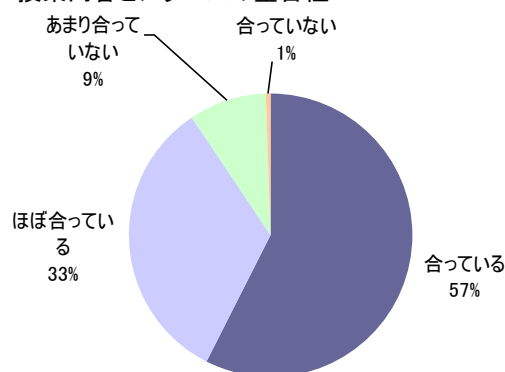
Q5. 授業の進度



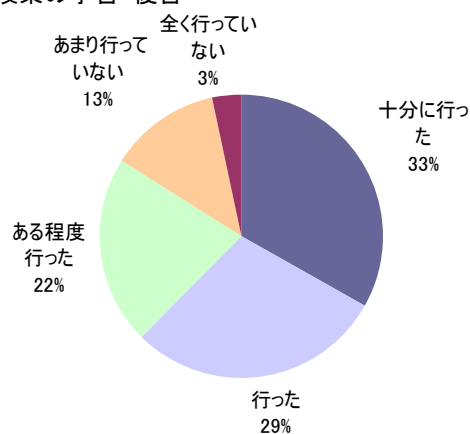
Q2. 遅刻・早退回数



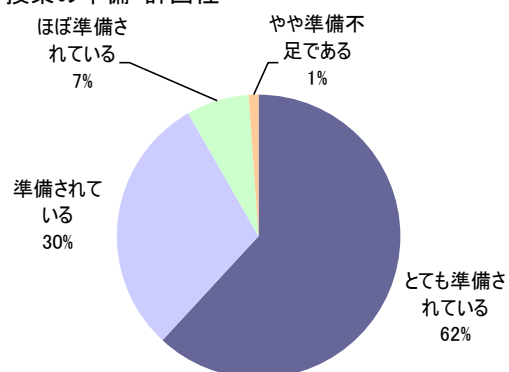
Q6. 授業内容とシラバスの整合性



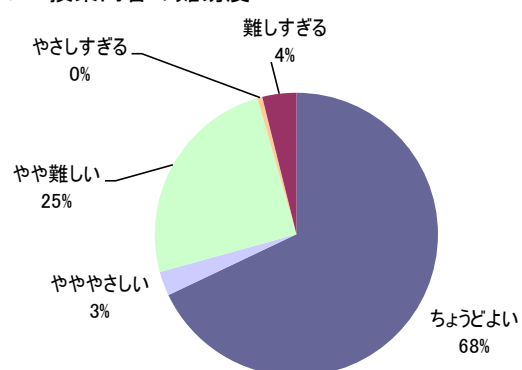
Q3. 授業の予習・復習



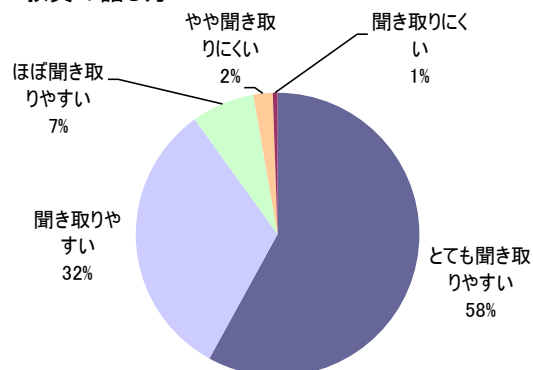
Q7. 授業の準備・計画性



Q4. 授業内容の難易度

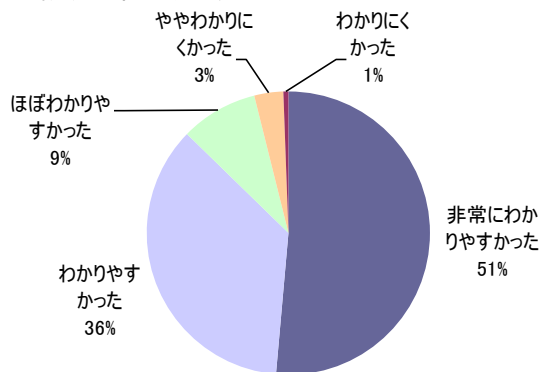


Q8. 教員の話し方

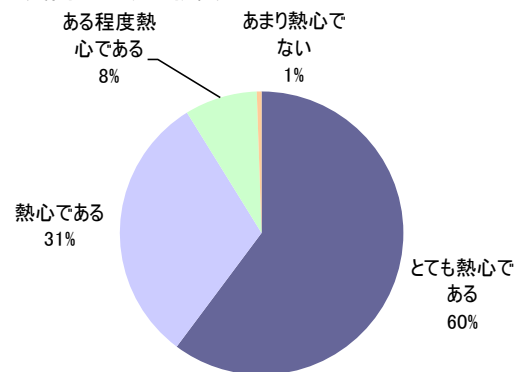


東京大学農学部 2021年度AWターム 授業アンケート結果集計表（全体集計：実験）

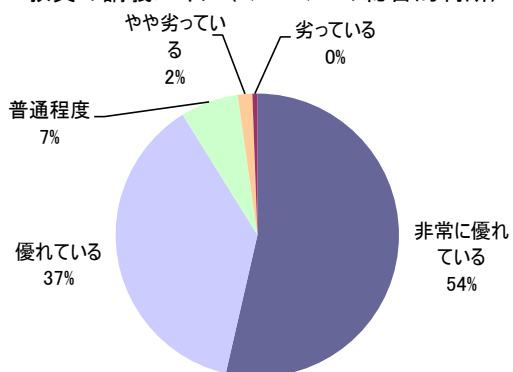
Q9. 説明のわかりやすさ



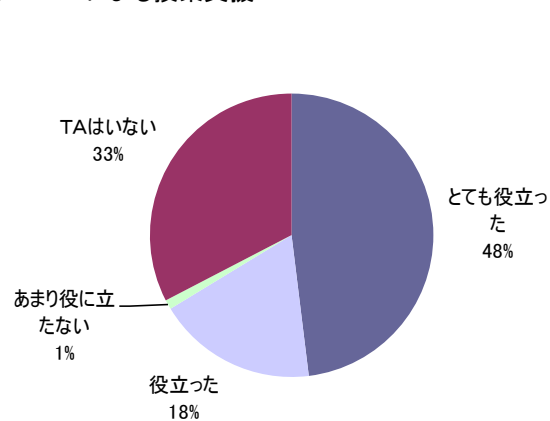
Q13. 質問に対する教員の対応



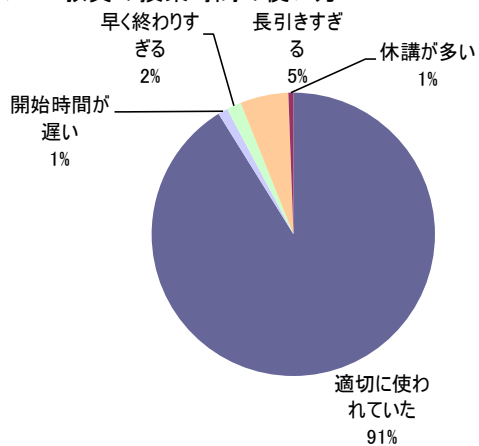
Q10. 教員の講義スキル (Q7～Q10の総合的判断)



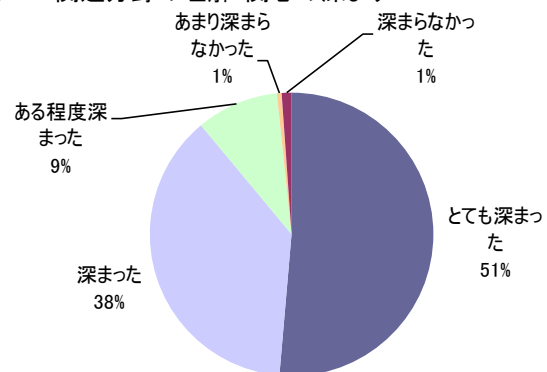
Q14. TAによる授業支援



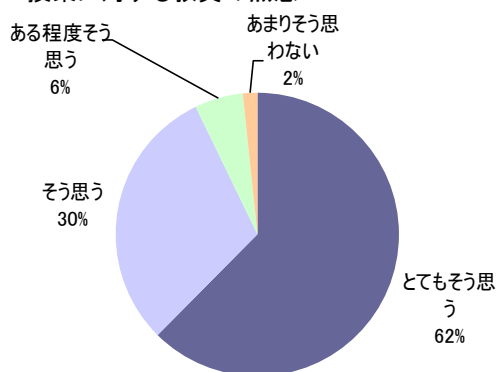
Q11. 教員の授業時間の使い方



Q15. 関連分野の理解・関心の深まり



Q12. 授業に対する教員の熱意



Q16. 総合評価

